

堂木と「大東輿地図」に見る環境単位

齊木 崇人

プロフィール
1948年広島県生まれ。神戸芸術工科大学
1948年広島県生まれ。神戸芸術工科大学
学長、筑波大学専任講師、神戸芸術工科大学
教授などをへて現職。工学博士（東京大学）
1987年には日本建築学会賞（論文部門）
を受賞した。おもな著書に『スイスの住居・
集落・街』（丸善）、『円相の芸術工学』（共著
工作舎）などがある。

私たちが実体験を通してイメージする場所や空間の認識は、科学的な測量技術や写真技術で測り作られた地図よりも、プリミティブな地図や画像の表現と適合することがある。

私は、建築学の視点から日本の集落空間の構成原理と地形立地の研究をまとめた後、韓国の集落を目指した。一九八七年八月から一〇年、崔宗絃さん（漢陽大学）と約三〇〇の集落を巡った。

集落の立地する凹型地形の入り口に、必ず堂木と呼ばれる一本の太木があった。堂木の下に立ち、周りを見回すと、水が潤す水田の向こう正面に案山がある。振り返れば集落と集落を護る主山がある。その主山から両腕を伸ばした稜線が集落と水田を包んでいる。自然の地形が集める水系と、集落の内と外をつなぐ道との結節点に、集落の背後の主山からやってきた神の使いとする堂木があった。

調査の中途、崔宗絃さんから李朝期に金正浩（号・古子山）が自ら歩いて作成した「大東輿地図」（復刻版）を頂いた。木版印刷による縮尺一六万八〇〇〇分の一、朝鮮半島の白頭山から済州島までを南北三段に分割し折り本とした地図の箱を手にした時、驚愕した。縦五メートル、横三・五メートルの巨大な朝鮮全図に私たちが堂木を求めて巡った集落の空間構成と、後方の山やまに

連続する国土の構成が、見事に書き込まれていた。情報量は極めて少なく、山やまの尾根線が「龍脈」として黒々と分岐し、その間の水系が地図の骨格をなしている。それと対照的に直線で書かれ一〇里ごとに目盛の入った道が主要施設とともに記載されている。つまり山と水と道のシステムを三種類の線だけで、集落と都邑を形成する集水域を環境単位として可視化しながら朝鮮半島の全体像が構築化されていた。

この地図の原本は未だ発見されていない。筑波大学図書館で明治期の朝鮮半島調査資料を探索中に、偶然に彩色された「大東輿地図」を発見した。その地図を韓国のソウル大学に照会すると、韓国にも現存しない最も古い写本であった。

私はその後、韓国の集落調査ではこの折り本を縮刷版にしてポケットに入れて活用した。

近代以降の地形図の表記から消えてしまった「尾根線」と「水系」の復元が、集落の環境単位を示し、同時に朝鮮半島全体の地形や空間秩序まで読み取れることを可能にしてくれた。

こうして、私がフィールドワークを通して体感した空間認識は、集落計画と環境デザインの実現手法「空間ブロックダイアグラム」となった。

- 12 みんぱく Information
- 14 世界のバスケットリー×バスケットリーの世界
海の民とバスケットリー
小野 林太郎
- 16 みんぱく回遊
越境する食
謝 春游
- 18 シネ倶楽部 M
重層的な人物描写が描き出す、
秘められた苦悩の歴史
——「判決、ふたつの希望」
菅瀬 晶子
- 20 ことばの迷い道
多言語の国インドの教室にて
岡田 恵美
- 21 次号予告・編集後記

- 1 エッセイ 千字文
堂木と「大東輿地図」に見る環境単位
齊木 崇人
- 2 特集 世界の地相術
景観の「科学」
河合 洋尚
- 4 インドのヴァーストゥ・ヴィディヤ
柳沢 究
- 5 日本の家相
宮内 貴久
- 7 中東の土占い
西尾 哲夫
- 8 ヨーロッパのフィジオノミー
渡邊 欣雄
- 10 ○○してみました世界のフィールド
中国の教会の過去と現在を訪ね歩く
新居 洋子

月刊
みんぱく

10月号目次